

平成 24(2012)年版

伊丹市人権教育・啓発白書

平成 24(2012)年 10 月

伊丹市

目 次

伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針の体系	1
はじめに	2
特集 震災と人権	3
震災と人権に関わる主な事業の実施状況	4
報告 平成 23(2011)年度に講じた人権教育・啓発推進の方策	10
1．人権全般の普遍的な視点からの取り組み	11
2．さまざまな人権課題への取り組み	15
(1) 女性	15
(2) 子ども	17
(3) 高齢者	21
(4) 障がい者	22
(5) 同和問題	23
(6) 外国人	25
(7) HIV感染者・ハンセン病患者等	26
(8) 高度情報化社会の進展に伴う人権問題	27
(9) その他の人権課題	27
3．人権を守る取り組み(人権相談)	28
4．あらゆる場における人権教育・啓発の推進	28
(1) 保育所(園)・幼稚園・学校	28
(2) 家庭・地域・職域	29
(3) 市職員等に対する研修	29
5．総合的・効果的な推進等	30
(1) 全庁的な推進体制	30
(2) 関係機関等との連携・協力、市民の参画と協働	31
(3) 人権啓発センターの取り組み	31
(4) 内容・方法の充実	32
おわりに	33
資 料	34

伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針の体系

．基本的な考え方

・「人権教育・啓発推進法」
・国の基本計画、県の推進指針等
・伊丹市総合計画 / 伊丹市の関連計画

・人権教育・啓発を巡る内外の動き
・「人権教育のための国連 10 年」伊丹市行動
計画の成果と課題
・市民意識の現状(市民意識調査結果)

【人権の概念】 すべての人間が、人間の尊厳に基づいて持っている固有の権利

【人権の尊重】 自己の人権のみならず他人の人権についても正しく理解し、自己の権利の行使に伴う責任を自覚して、人権を相互に尊重し合う = 人権の共存

【人権教育・啓発の基本的視点】 人権尊重のまちづくり 発達段階等をふまえた効果的な方法の選択 行政・市民・事業者の役割及び連携・協力による推進 自主性の尊重と中立性の確保

．人権教育・啓発推進の方策

人権の普遍的な視点からの取り組み

命の大切さの実感
自尊感情の育成
個性の尊重
社会とのつながりを通して共に生きること

さまざまな人権課題への取り組み

女性 子ども 高齢者
障がい者 同和問題
外国人 HIV感染者等
高度情報化の進展に伴う人権問題
ほか

人権を守る取り組み
(人権相談)

相談体制の充実
相談担当者の資質の向上
相談内容の施策等への反映

．あらゆる場における推進

保育所(園)・幼稚園・学校 / 家庭・地域・職域 / 職員研修

．総合的・効果的な推進

全庁的な推進体制 (伊丹市人権教育・啓発推進本部)

関係機関等との連携・協力、市民の参画と協働 (法務局、伊丹人権擁護委員協議会、伊丹市人権・同和教育研究協議会、伊丹市人権啓発推進委員、伊丹市人権教育・啓発推進会議 など)

人権啓発センターの取り組み (人権啓発の拠点施設としての機能)

内容・方法の充実

進捗評価及び見直し

はじめに

本市では、さまざまな人権課題に対応する今後の人権教育・啓発の基本的な方向及びその体系を明らかにするものとして、平成22(2010)年10月に伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針（以下、「基本方針」という）を策定しました。「基本方針」は、伊丹市総合計画を上位計画として、本市の他の計画と連携しながら人権教育・啓発を推進するものです。「基本方針」に掲げる施策・事業については、毎年度、その成果や課題を検証することとしています。なお、「基本方針」は伊丹市ホームページ内（市民自治部＞同和・人権推進課＞伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針）でご覧いただけます。

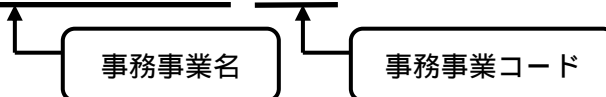
本書は、「基本方針」に基づく年次報告書で、本市が平成23(2011)年度に講じた人権教育・啓発に関する施策について取りまとめており、大きく分けて「特集 震災と人権」と「報告 平成23(2011)年度に講じた人権教育・啓発推進の方策」で構成されています。

「特集」は、平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災に伴い、命の尊さやボランティア精神、思いやりの心の大切さなど、人権尊重の視点からの教育・啓発活動を紹介し、今後への記録としました。

「報告」は、「基本方針」において課題として掲げた項目に関する平成23(2011)年度の主な取り組みを示しています。主な取り組みは、平成23(2011)年度行政評価の評価対象となっている事務事業を中心として、特に人権教育・啓発に関わりのある事務事業を取り上げています。

本書は、行政評価結果報告書との相互利用性を高めるため、行政評価の対象となっている事務事業については、行政評価上の「事務事業名」と「事務事業コード」を掲載しています。なお、コードを掲載している事務事業は、「伊丹市総合計画（第5次）前期事業実施5カ年計画」の体系に基づくもので、詳しい内容については、伊丹市ホームページ内（総合政策部＞政策室＞行政評価）でご覧いただけます。

掲載例：【人権啓発標語募集事務 921121】



行政評価とは、効率的かつ効果的な市政運営を行うとともに、市政に関して市民に説明責任を果たすことを目的として、市の各種業務を、経費・活動状況・施策への貢献度等の視点から評価したものです。

特集 震災と人権

平成 23(2011)年 3 月 11 日、東北地方を中心に東日本の広い地域を襲った激しい地震と津波は、多くの人命を奪い、自然環境や社会資本を根こそぎ破壊しました。

「災害」と「人権」は密接な関係にあります。大規模な災害は多くの命を危険にさらし、人々から平穏な日常生活を奪い、理不尽とも思える苦しみ、悲しみを強いることもあります。こうした事態そのものが被災者の人権を大きく損なっていることを忘れてはならないのではないでしょうか。

一方、この震災によって、これまで見えにくくなっていた人権に関わる様々な問題が顕在化しました。特別な支援や配慮等を必要とする女性や子ども、高齢者、障がい者、外国人、病人、乳幼児を抱える家族など、いわゆる「災害弱者」とされる人たちの生活の問題です。さらに、放射能汚染についての風評被害、避難先での被災者に対する心無い対応など新たな人権問題も発生しました。

17 年前、阪神・淡路大震災を経験した私たちにとって、遠く離れた被災地の問題をどれだけ自分事としてとらえることができるかが問われています。相手の立場を理解し、尊重することは、様々な人権課題の解決に共通するテーマです。

東日本大震災の発生以来、募金活動や支援物資の提供、被災地でのボランティア活動など市民・事業者の皆さんの積極的な支援活動が行われました。また、様々な職種の本市職員も被災地に赴いて復興支援に力を尽くすとともに、現地での経験から多くを学びました。

こうした支援活動は今日も続いています。今回の特集ではとりわけ「震災と人権」の視点から平成 23(2011)年度に本市で実施した人権教育・啓発の取り組みを紹介し、今後への記録とします。

なお、東日本大震災の被災地支援として、本市の対応については、伊丹市ホームページからご覧いただけます。



震災と人権に関わる主な事業の実施状況(実施順)

[]内の数字は参加・出席者数

事業名	日時・会場	内容
東日本大震災被災地支援記録展、市民メッセージの募集	平成23(2011)年 4月12日～28日・市役所1階ロビー	伊丹市や陸上自衛隊中部方面隊、市民のボランティア活動等についての写真展を開催しました。会場には記載所を設置し、市民の皆さんに被災地へのメッセージを書いていただきました。222件のメッセージは宮城県岩沼市・名取市、岩手県花巻市へ発送しました。
男女共同参画週間パネル展	平成23(2011)年 6月20日～7月1日・市役所1階ロビー	東日本大震災を受けて、女性や子育てのニーズをふまえた避難所運営など、男女共同参画の視点からの防災・災害復興についてのパネルを展示しました。
講演会「福島原発震災、四ヵ月後の現状」	平成23(2011)年 7月30日・『ふらっと』人権センター	市民グループ「核のごみキャンペーン関西」や「はんげんぱつ新聞」の編集委員として活動する末田一秀さんより、震災から4ヵ月を経過してわかった原子炉内部の状況と避難地域における人権侵害の問題、さらには私たちの生活にかかわる食品汚染や今後のエネルギー問題について講演いただき、学習を深めました。[54人]
伊丹七夕まつり	平成23(2011)年 7月26日～8月7日・市内の中心市街地等	伊丹市や中心市街地活性化協議会他の主催。東日本大震災の被災地である仙台市で毎年開催されている「仙台七夕まつり」を本市中心市街地などで再現するイベント。8月6・7両日には、東北地方の物産ブースの開設、短冊メッセージの受け付け(短冊は有料、義援金として寄付)等を行いました。

被災地支援記録展



伊丹七夕まつり



事業名	日時・会場	内容
夏の平和事業・大震災からの発信～平和なくらしを求めて～	平成 23(2011)年 8月3日～10日 ・中央公民館	【パネル展】震災復興支援パネル展～東日本大震災被災記録とチェルノブイリ原発事故25年～ [延べ 466人] 【講演会】 ボランティアから見た被災地の現状と支援のあり方(講師=被災地NGO協働センター代表・村井雅清さん) 原発に反対する理由(講師=京都大原子炉実験所助教・今中哲二さん) 地震を知り、地震に備える(講師=産業技術総合研究所関西センター・寒川旭さん)[3回で70人] 【映画会】「祝の島」(ほうりのしま)上映 [79人]
生徒会サミット 「災害に備えた魅力あるまち伊丹～家族の絆、人とのつながり、地域とは～」	平成 23(2011)年 8月9日・産業・情報センター	伊丹のまち・学校で育つ子どもが、人や地域のつながりについて考え、今、私たちに何ができるのかなどについて考えました。[130人。うち中高生 40人] 【生徒の感想】 学校で何回も練習していくにつれ、震災に対するの関心も深まってきました。今、学校ではどのような支援ができるのかなど、改めて考えなければならぬことが明確になりました。 今まで知らなかった震災の恐ろしさや人々の悲しみを知ることができました。当日も地域の人々に知ってもらえてよかったし、たくさんの感想をいただけてよかったです。
被災地の子どもたちを招待	平成 23(2011)年 8月19日～21日 及び 平成 24(2012)年 3月25日～27日	本市と相互応援協定を締結している宮城県名取市・岩沼市の子どもたちに楽しい夏休みと春休みのひとときを過ごしてもらおうと元氣になってもらおうと、伊丹市社会福祉協議会が企画。両市の小・中学生など40人を本市に招待し、こども文化科学館や昆虫館等巡ったり、8月にはアイ愛センターで行われた「手をつなぐ夏の夕べ」を訪問しました。 【子どもたちの感想】 伊丹市でとても印象に残ったのは、私たちの住んでいるまちにはないような施設がたくさんあることです。親切にしてくださった伊丹市民の皆さんに感謝しています。

生徒会サミット



被災地の子どもたちを招待 = 伊丹空港



事業名	日時・会場	内容
講座「考えよう『市民防災と東日本大震災』」	平成 23(2011)年 8 月 29 日、31 日・サンシティ ホール	8 月 29 日は市民防災意識の再徹底を中心に市危機管理室、いたみコミュニティ放送の関係者から話を聞き懇談。8 月 31 日は現場からの報告として市消防局、同水道局、伊丹市社会福祉協議会の関係者から映像を交えて現地の生々しい救援活動の報告を聞き懇談しました。[57 人]
双子のキャンドル作り	平成 23(2011)年 9 月 26 日、10 月 22 日・『ふらっ と』人権センタ ー、児童館	双子のキャンドルとは、溶かしたろうに糸の両端を浸して乾かすことを何度も繰り返して年輪のように一重一重太らせて作るもので、阪神・淡路大震災の際に、山形県の養蜂家が励ましのメッセージを添えたキャンドルを伊丹市の被災者に届けたことが出会いの始まりです。今度は私たちが東北の方々へお返しする番だと、『ふらっと』人権センターの啓発交流事業や人権フェスティバルの児童館事業で心をこめてキャンドルを作り、被災地の早い復興を祈りました。[99 人]
講演会「外国人市民から見た被災地の人々」	平成 23(2011)年 11 月 16 日・い たみホール	伊丹市国際・平和交流協会主催。米国オクラホマ州出身の宣教師テレサ・スイ - レンさんから、現地支援活動を通して気づいた外国人の視点から見た被災地の人々、その支援状況や心のケアをされたリアルな体験を聞きました。[33 人]
「ラジオと防災」シンポジウム	平成 23(2011)年 11 月 25 日・ア イホール	日本コミュニティ放送協会近畿地区協議会主催。東日本大震災・被災局報告や「災害時における市民の行動とコミュニティ放送の役割」をテーマに、行政、市民、コミュニティ放送局、それぞれの立場から、災害時における行政と放送局の関係、また、市民は災害時、ラジオに何を求めているのか、そして、放送局同士の連携のあり方などを議論しました。藤原市長もパネラーの一人として参加しました。

市民防災と東日本大震災



双子のキャンドル作り



事業名	日時・会場	内容
講演会「東日本大震災と聴覚障がい者」	平成 23(2011)年 12月 10日・アイ愛センター	県から被災地に派遣された手話通訳士からの報告をもとに、災害時に私たちが何をすべきかを一緒に考えました。 [約 60 人] 【感想】 役所に手話通訳が設置されておらず、被災手続きや相談に行くことを知らなかった聴覚障がい者の報告や、避難所で食料配布の情報が入ってこず、先の生活に不安を感じたということからも、聴覚障がい者への情報保障の必要性を感じました。 情報弱者への防災の必要性について考えなければならないと思いました。
2分1成人式 「命の授業」	平成 24(2012)年 1月 14日・いたみホール	市内各小学校及び特別支援学校から 1人ずつ選ばれた計 18人の 4年生がこれまでの成長を支えてくれた人への感謝や将来の夢などについて書いた作文をそれぞれ発表しました。 東日本大震災に伴う原発事故の影響により、福島県から避難中の細川さんが、「家族と一緒に暮らすことが当たり前だったあの頃より、お父さんお母さんが自分たちの事をどれほど大切に思ってくれているのか、わかったような気がします」「地域のため、大切な家族や仲間のために一生懸命頑張る大人になりたい」と、力強く決意を述べました。 また、100歳の現役医師で聖路加国際病院理事長の日野原重明さんによる「命の授業」を受け、命として与えられた時間を人のために使うことの大切さなどを学びました。[1,159人]
第 12 回伊丹市社会福祉大会 「大震災を経て、今思うこと」	平成 24(2012)年 1月 21日・いたみホール	東日本大震災への支援活動を通じて、改めて“地域のつながり”の必要性、人と人との“つながり”の大切さを痛感したことから、今年度は、「再発見！“地域のつながり 人と人との絆”」をテーマに、伊丹市社会福祉協議会の被災地支援の取り組みの紹介のほか、朝日放送のパーソナリティで、伊丹大使の道上洋三さんをコーディネーターに、今後の地域福祉活動について市民とともに考える機会としました。
通訳ボランティア研修会	平成 24(2012)年 3月 9日・いたみホール	講師には、「特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会」の時光(とき・ひかる)さんを迎え、「災害時の外国人支援」を通じての経験談から、通訳を行う際の心構えや、相談者への対応の仕方と活動するにあたってのアドバイスをお話いただきました。[14人]

2分の1成人式



通訳ボランティア研修会



このほか小中学校等においては、被災地への激励メッセージや募金活動、被災地支援イベントへの参加、被災地学校との交流、防災や放射能についての学習など様々な取り組みが行われました。

平成 23(2011)年 9 月 15 日号及び平成 24(2012)年 3 月 15 日号「広報伊丹」には、「震災支援特集号」を折り込み、市内全世帯へ配布しました。被災地からのメッセージや、ボランティアの活動をはじめ様々な支援活動を紹介、その他にも市内に避難された被災者への情報、防災授業の様子等を掲載しました。

広報伊丹 itami 震災支援特集号 平成 23 年 (2011 年) 9 月 15 日

発行・伊丹市総務部危機管理課 〒664-8503 伊丹市千歳 1-1 ☎072-784-8166

ともに支え合おう！がんばろう日本！

伊丹市は市民の皆様とともに
全力で復興を支援します

東日本大震災伊丹市災害対策支援本部

伊丹市は16年前の阪神・淡路大震災の際に、海外・国内の多くの皆さんから支援をいただきました。今回の大震災に対しては、「ともに支え合おう！がんばろう日本！」を合言葉に、市民の皆様とともに被災地支援を進めてまいります。

被災地からのメッセージ

市長からのメッセージ

震災支援特集号（1面）
（平成 23 年 9 月 15 日号）

被災地では一日も早い生活の安定や暮らしの再生に向け、今も様々な取り組みが行われています。今後とも被災地の復興支援を進めるとともに、大震災の状況及び市等の対応について、人権尊重の視点から引き続き検証を行い、安心安全のまちづくりのために留意すべき事柄を明らかにする必要があります。

【コラム】被災地支援ボランティアへ参加して（東日本大震災と紀伊半島大水害）

伊丹市社会福祉協議会が派遣した被災地支援ボランティアの方々に体験談をお聞きしました。

◆「東日本大震災被災地支援ボランティアに参加して」新垣茂さん

平成 23(2011)年 5 月 20 日からの 4 日間。私が参加したボランティアの主な活動内容は、全国各地から送られ、岩沼市総合体育館に保管・管理された救援物資を、同市内の玉浦公民館で地域の方々にお配りすることでした。

阪神・淡路大震災の時には何も出来なかった自分にもどかしさを感じていましたが、今回被災された方々への手助けの一端を担えたことで、むしろ私の方が救われました。当たり前のように日々過ごしている私ですが、このような惨事を目の当たりにし、今改めて命の重みを感じています。自らの存在意義を問うためにも、自分にできる範囲ではありますが、今後も人の役に立てる人生を歩めたらと思います。



岩沼市でのボランティア活動

「広報伊丹」平成 23(2011)年 9 月 15 日号「震災支援特集号」紙面より

◆「紀伊半島大水害被災地支援ボランティアに参加して」丸勝彦さん

平成 23(2011)年 9 月 26・27 日、10 月 8・9 日の 4 日間、那智勝浦への水害ボランティア派遣に参加しました。主な活動内容は、水害により散乱した家財道具、ガラス破片の除去、泥かきでした。被災地の現状、被災世帯や人数を把握し、その情報を行政とボランティア支援団体で共有することが重要であると感じました。

以前より、障がい者支援活動をしてきましたが、今回、被災地支援をする中で、障がい者の方は一般の避難所には避難しづらいという現状がありました。今回のような災害が伊丹市で起きた場合はどのような被害が出るのか、迅速に対応できるのかなどを、ボランティア仲間でも議論しました。

現在、「いたみ災害支援ボランティア懇談会」をたちあげて活動しており、今後は市民同士で災害の取り組み課題について学び、解決していくなかで、市民同士のつながりを築いていくことを目指しています。

平成 24(2012)年 8 月、いたみいききプラザで聴き取り

報告 平成 23(2011)年度に講じた人権教育・啓発推進の方策

「人権の世紀」といわれる 21 世紀に入ってはや 10 年以上が経過しました。人権の尊重が平和の基盤であるという意識が高まり、社会全体で人権問題に取り組もうとする機運が高まっています。

本市においては、平成 13(2001)年に「人権教育のための国連 10 年」伊丹市行動計画を策定し、人権教育・啓発を推進してきましたが、計画期間の終了に伴い、これまでの成果と課題や「伊丹市人権に関する市民意識調査」(平成 21(2009)年 7 月実施)の結果等をふまえ、本市における人権教育・啓発の基本的な方向及び施策の体系を明らかにするものとして、平成 22(2010)年 10 月に「伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針」を策定しました。

「基本方針」に基づき、平成 23(2011)年度の人権教育・啓発に関しては、主に次のような取り組みを行いました(掲載順)。

東日本大震災に伴い、本市においても講演会やイベント、被災地の子ども達との交流など、様々な取り組みを通し、人権の視点から大震災後の状況を追い、一人ひとりの人権意識の向上につなげました = 「特集 震災と人権」参照。

人権啓発標語募集において、平成 23(2011)年度より表彰において、高校生の部を新設しました。市内公立高等学校生徒の応募が大きく増加し、人権啓発標語を考える活動を通して、人権教育の推進に努めることができました。

「いたみっこのおやくそくカード」を作成し、楽しみながら基本的な生活習慣の定着や規範意識を形成することを目指し、就学前児童に配布しました。

認知症や障がい等によって判断能力が十分でない人が、住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、市内社会福祉法人の協働により設置された伊丹市福祉権利擁護センターを通して、相談支援事業の強化を図るとともに、市民の権利擁護に向けた取り組みを支援しました。

防災・緊急情報や行政サービス情報を多言語で迅速に提供するため、市ホームページで 4 言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語)の自動翻訳システムを導入し、外国人市民が安心して暮らせるように努めました。

インターネット掲示板での人権侵害事象についてモニタリングを行い、人権研修としても活用しながら実態の把握と人権意識の向上を図りました。

自殺予防対策庁内連絡会議の開催や市民などを対象とする「こころの健康市民講座」の実施など、自殺予防対策を進めました。

今後も、平成 23(2011)年度からスタートした「伊丹市総合計画(第 5 次)」の基本方針「多様性を認め合う共生社会」の実現をめざし、本市のすべての施策に人権尊重の視点を反映させるとともに、人を大切にす市民同士のつながりを築くことにより、市民とともに人権教育・啓発活動を推進します。

1. 人権全般の普遍的な視点からの取り組み

<1> 差別を許さない都市宣言制定記念市民集会

市民一人ひとりが様々な人権課題を自らの課題として受け止め、差別のない明るい社会を築くことを目的として、平成 23(2011)年 11 月 1 日に伊丹アイフォニックホールで開催しました。朝の情報番組でおなじみの気象予報士、正木明さんが「正木明の人権天気予報～正木家のルール・自然のルール」と題して記念講演を行ったほか、都市宣言朗読、人権作文・ポスター・標語入賞者表彰を実施し、340 人の参加がありました。【差別を許さない都市宣言制定記念市民集会事業 921120】

参加者のアンケートから「差別を許さない都市宣言制定記念市民集会」

- ・記念講演では身近な人権問題について考えるいい機会になったので良かったです。今後も自主的に参加したいです。(30 歳代)
- ・作文の朗読コーナーが最も感銘した。時間が許されれば、件数を増してほしい。青少年が直接読まれると涙が出るほどであった。(60 歳代)
- ・今回のように講演会の講師は幅広い立場で活躍された方に来ていただくことも大切だと思いました。(70 歳代)

<2> 人権啓発講座「ハートフルコンサート」

人権啓発推進委員の事業として平成 23(2011)年 7 月 5 日に開催しました。講師にシンガーソングライターのう～みさんを招き、「あなたに会えてよかった」という演題で、「命の大切さ、命は繋がっている」をテーマに、実体験に基づくトークと思いのこもった歌を交えて講演をいただきました。授業の一環として参加した伊丹市立北中学校 2 年生を含め、計 364 人の参加がありました。【人権啓発推進委員会 921105】



ハートフルコンサート

参加者のアンケートから 人権啓発講座「ハートフルコンサート」

- ・温かい心に響くとてもいいお話でした。いろいろある毎日です。でも前に進んでいこうという気持ちと勇気をいただきました。(40～50 歳代)
- ・う～みさんの明るい笑顔、ピアノ、歌、本当に素晴らしかったです。色々な人生経験をしながらもそれを笑いに変えるたくましさ、あきらめないことを自分の人生を通して子ども達に伝えてくださってありがとうございます。私も一日一日を大切に自分にできることを精一杯頑張りたいと思います。(40～50 歳代)
- ・トークがすごく楽しく、歌もとてもよかった。特に「プリン」という曲が「トイレの神様」より感動的だった。歌詞の中では、自分が生活していて気づかないことを教えてくれたり、トークでは、う～みさんの苦勞から学んだりしました。味方はぜったいにいるんだと思った。(北中学校生)

<3> 第7回人権フェスティバル

市と実行委員会の共催で平成23(2011)年10月22・23両日、人権啓発センター『ふらっと』で開催しました。22日は模擬店や趙博(チョウバク)さんのコンサートのほか、人権講演会(講師は大阪市浅香地区まちづくり協議会会長の山本義彦さん)を実施。23日は、人権と平和のウォークラリーや実行委員ほかによる朗読劇やスライド発表、三味線など舞台発表を行いました。延べ604人の参加がありました。

<4> 人権啓発標語

市民一人ひとりが人権問題を自らの課題として受け止め、人権の大切さについて理解を深めることを目的に、人権啓発標語を募集しました。平成23(2011)年度は2,360件の応募がありました。優秀作品7点と入選作品5点については俳画を作成し、人権啓発センター等で展示しました。【人権啓発標語募集事務921121】

平成23(2011)年度人権啓発標語

優秀作品

ごめんねは 心の傷の 特効薬
しらんぷり 一度でつくる 百のきず
傷ついた 相手の心が 見えますか？
「ここどうぞ」 老いた背中に 愛の声
なりたいな 人の気持ちの わかる人
助け合う 心の一步は 感謝から
親たちの 人権意識 子らが継ぐ

入選作品

見ないふり 私もあなたも 傷つくよ
大事だよ 手をさしのべる その勇氣
あと一步 「やめよう」と言う 勇氣だけ
知ること その偏見が 消えてゆく
わかるはず 傷つく言葉 あなたにも



優秀作品の俳画

<5> 人権作文・ポスター

次代を担う小・中学生が、人権に関わる作文やポスターの表現活動をとおして、人権尊重の重要性・必要性についての理解を深めることを目的として、人権作文と人権ポスターを募集しました。平成23(2011)年度は人権作文5,653件、人権ポスター625件の応募がありました。優秀作品は、「人権週間記念作文集」に収録し、学校教育の資料として、また児童生徒等を通じて保護者に配布し、家庭における話し合いや研修会等における研修資料として積極的な活用を図りました。【人権作文・ポスター募集事務921122】



人権週間記念作文集

<6> 人権教育指導員

幼児期の教育、学校教育、および社会教育における人権教育に識見がある市民を人権教育指導員に委嘱し、学校・地域・団体からの希望に応じて、研修等の講師や助言者として派遣しています。平成 23(2011)年度は 99 回の研修等に派遣し、延べ 4,359 人の参加がありました。なお、課題別の派遣数の推移は下表のとおりです。【人権教育指導員派遣事業 921106】

人権教育指導員派遣研修会 「課題別」集計表

課 題	平成 1 9 年度		平成 2 0 年度		平成 2 1 年度		平成 2 2 年度		平成 2 3 年度	
	派 遣 人 数	割 合	派 遣 人 数	割 合	派 遣 人 数	割 合	派 遣 人 数	割 合	派 遣 人 数	割 合
女性	3	3%	5	4%	4	4%	7	6%	1	1%
子ども	25	24%	20	17%	15	14%	13	12%	18	18%
高齢者	0	0%	0	0%	2	2%	1	1%	1	1%
障がい者	9	9%	11	9%	12	11%	8	7%	6	6%
同和問題	16	16%	28	23%	23	21%	29	26%	34	34%
外国人市民	3	3%	9	7%	5	5%	6	5%	8	8%
感染症患者	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
さまざまな人権問題	34	33%	23	19%	31	29%	30	27%	15	15%
上記以外の研修	12	12%	25	21%	16	15%	17	15%	16	16%
合計	103	100%	121	100%	108	100%	111	100%	99	100%

<7> 人権啓発推進委員

地域における人権啓発活動を推進するため、小学校ブロックごとに啓発活動に取り組む市民を人権啓発推進委員に委嘱しています。委員はそれぞれの地域でミニ人権研修会等を企画し、平成 23(2011)年度には 18 回開催し、延べ 426 人の参加がありました。また、人権啓発講座「ハートフルコンサート」においては、講師選定の段階から企画運営に参加しました。さらに、資質向上のため、学習会や管外研修等を実施しました。【人権啓発推進委員会 921105】

<8> 視聴覚教材の貸し出し

学校・家庭・地域・職場等の人権学習教材として、様々な人権課題に関するビデオテープ・DVDを貸し出しています。平成 23(2011)年度は新たにDVD8 作品「桃香の自由帳」、「それぞれの立場 それぞれの気持ち」、「心のケアと人権 職場編」、「セクハラ対策の新常識」、「私の中の差別意識」、「ともだちみつけた」、



「桃香の自由帳」

「風のかたち」、「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」を人権教育室、『ふらっと』人権センター、伊丹市人権・同和教育研究協議会で購入しました。貸し出しにあたっては、作品ごとに研修方法を例示して利便性を高めるとともに、各種研修の開催時に貸し出し目録を配布するなど周知を図り、平成 23(2011)年度には 251 件の利用がありました。【視聴覚教材貸出事務 921108】

<9> 平和啓発事業

7・8 両月を「2011 年平和を考える夏」として、リーフレット 22,000 枚を作成、配布しました。期間中、中央公民館や人権啓発センター、ラストホール、図書館などを会場に、平和について考える写真展や講演会、平和映画会などを実施し、平和の大切さについての啓発に努めました。【平和啓発事業 921202】

平和啓発事業一覧

事業名	日時・(会場)	内容・(参加人数)
写真パネル展「原子爆弾 ～広島・長崎の記録～」	平成 23 年 7 月 21 日～ 27 日(ラストホール)	被爆の事実と戦争の悲惨さを見つめなおし 平和の意義や尊さを考えました。(779 人)
アニメ映画「ぞう列車がや ってきた」	平成 23 年 7 月 23 日 (ラストホール)	戦時中、象の命を守った人々のあたたかい 心が伝わる実話物語を上映しました。(300 人)
アニメ映画「クロがいた 夏」	平成 23 年 7 月 30 日 (きららホール)	被爆 45 周年記念企画・長編アニメーション で、戦争の怖さと人の温かさを上映しまし た。(212 人)
平和を語るおはなし会 絵本の読み聞かせ	平成 23 年 8 月 5 日 (図書館南分室)	絵本「へいわってどんなこと?」「ワングリの 平和の木」「ヒロシマのピアノ」の読み聞かせ をしました。(22 人)
夏休みニコニコ子ども教 室	平成 23 年 8 月 6 日 (『ふらっと』児童館)	みんなで平和学習をしました。(17 人)
伊丹・平和の美術展	平成 23 年 8 月 10 日～ 15 日(いたみホール)	伊丹の芸術家のみなさんが、平和への祈り を込めて、絵画や写真・書などの作品を展 示しました。(359 人)
平和を語るおはなし会 絵本の読み聞かせ	平成 23 年 8 月 13 日 (図書館本館)	絵本「キンコンカンせんそう」「ピース・ブック」 「だっこの木」の読み聞かせをしました(5 人)
平和の鐘・カリヨンコンサ ート	平成 23 年 8 月 15 日 (JR伊丹駅前広場)	平和な未来への願いと東日本大震災犠牲 者を追悼しカリヨンを演奏しました。(326 人)
平和を語るおはなし会 絵本の読み聞かせ	平成 23 年 8 月 20 日 (図書館北分室)	絵本「いわたくんちのおばあちゃん」「へいわ ってどんなこと?」の読み聞かせをしました。 (13 人)

2. さまざまな人権課題への取り組み

(1) 女性

男女共生教育及び生涯学習等の推進

学校園においては、性別にとらわれず様々な仕事に就くことができることや毎日の生活に何気なく組み込まれている男女のあり方に気付くことができるよう「男女共生教育ハンドブック」の活用等を通して男女共生教育を推進しました。

内閣府の男女共同参画週間（6月23日～29日）にあわせて、市役所と女性・児童センターで啓発パネル展を行いました。平成23(2011)年9月の「男女共同参画推進市民フォーラム」では、講演「男女共同参画の実現を目指して～スウェーデンの実践例から学ぶ」に82人の参加がありました。【男女共同参画推進市民フォーラム事業 921308】

公民館では、伊丹市公民館事業推進委員会の企画により市民講座「たくましく生きた女性たち」や「パパと一緒に野外料理を楽しもう！」など、様々な角度から男女共同参画に関する学習活動を実施しました。

女性の人権を尊重し、男女平等を推進する活動等の支援

女性・児童センターを拠点として、男女共同参画の推進や暴力の防止、女性の健康、性教育、男性の家庭力などをテーマに各種事業を展開しました。

主な事業として、「ぐるっと一日だんじょきょうどうさんかく」(400人)、「はじめての男女共同参画」(全10回、102人)、「コマーシャルに見る女と男」(12人)、「デートDVセミナー」(10人)、「『疲れた』とつぶやいてしまうあなたへ」(全8回、63人)、「いのちのおはなし」(幼児親子対象、全3回、98人)を実施しました。

また、「国際女性デー」(3月8日)にちなんだ女性の地位向上を目的としたイベント「いたみミモザの日」では、「オンブードと語ろう～介護・育児は誰がするの?」などの催しに約600人が参加しました。このほか、男女共同参画関係図書の貸し出し(図書834冊、雑誌110冊、DVD4本)、情報誌「ハート・メール」の発行(年4回)などを通して啓発を図りました。【女性・児童センター管理運営 921307】

公募市民が企画・編集する男女共同参画情報紙「com-com(コムコム)」を2回計4,000部発行し、市民の力を生かした啓発活動を行いました。【男女共同参画情報紙発行事業 921305】

政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

本市の審議会等への女性委員の登用拡大に向けて調査を行い、平成23(2011)年4月1日現在、全委員694人のうち女性委員は225人、全体に占める割合は32.4%で、前年に比べ0.3ポイント増加しました。また、市職員の管理職総数に占める女性の割合は16.3%で、前年に比べ0.5ポイント増加しました。

雇用の場における男女平等のための啓発

ワーク・ライフ・バランスに向けた環境整備や女性の能力活用など男女共同参画推進に積極的に取り組む市内事業所を公募し、平成 23(2011)年度は近畿中央ヤクルト販売(株)阪神支社と住友電気工業(株)伊丹製作所に「男女共同参画推進事業所表彰」を贈りました。あわせて広報伊丹等で取り組みをPRしました。【ワーク・ライフ・バランスの普及及び推進事業 212601】

伊丹商工会議所の発行する「会議所ジャーナル」において、市同和・人権推進課がシリーズ「男女が輝く職場づくりに向けて」を6回に渡って連載しました。

公民館では、市民講座「働く」を考える講座「ハッピーワーク&ライフシリーズ」の中で、パネルディスカッション「あなたらしい働き方にチャレンジしよう」を実施し、多様化する女性の働き方を考えました。



「会議所ジャーナル」

女性に対する暴力への対応

「伊丹市配偶者等からの暴力対策基本計画」に基づき、伊丹市DV被害者支援事業ネットワークを中心にDV対策に取り組みました。主管者会議及び担当者会議を開催し、情報交換や「伊丹市DV対応マニュアル」に即した対応の確認、ミニ研修を行うなど連携を深めました。

伊丹市DV相談室(伊丹市配偶者暴力相談支援センター)では、婦人相談員(DV相談員)が被害者等の相談に応じ、関係機関との連携によりDV被害者の一時保護や自立支援等を行いました。平成23(2011)年度の延べ相談件数は346件でした。【DV対策事業 921302】

市役所ロビーでDV防止啓発パネル展を開催したほか、伊丹地区更生保護女性会や伊丹市人権・同和教育研究協議会進路保障部会と連携して、DV防止のセミナーを実施しました。

相談体制の充実と周知

女性・児童センターにおいて、日常生活上の悩みや心配事などについて「女性のなやみ相談」を実施し、延べ112件の相談がありました。また、女性弁護士による「女性のための法律相談」を実施し、延べ61件の相談がありました。【女性のための法律相談事業 921306】

家族との関係や職場の人間関係での悩み、自分の生き方での悩みに対して「女性のためのカウンセリング(フェミニストカウンセリング)」を実施し、延べ221件の相談がありました。【女性のためのカウンセリング事業 921303】

また、法務局・人権擁護委員と連携し、「女性の人権ホットライン」について、「広報伊丹」等で周知しました。

(2) 子ども

子どもの権利に関する教育・啓発の推進

子どもの権利については、学校や児童生徒の実態に即し、総合的な学習の時間や道徳の時間に子どもの権利条約の趣旨をふまえた学習に取り組んできました。また、子どもの権利条約の精神をふまえ、子どもたち一人ひとりが、自由に自分の意見を表明できる場を確保するため、中高生が参加して「災害に備えた魅力あるまち伊丹」をテーマにした「生徒会サミット」のほか、10歳の子どもたちがこれまでの10年間の成長を振り返り、それを支えてくれた人々に感謝の念を持つことをねらいとした「伊丹市2分の1成人式」を行いました。【伊丹市生徒会サミット事業 222108】【伊丹市2分の1成人式事業 222109】

子どもたち自身が人権意識を持ち、暴力や犯罪から自分の身を守るための学習「CAP講習会(子どもの安全対策推進事業)」を実施し、市内17小学校3年生1,925人の児童が受講しました。特に、危機回避能力の育成や「安心」「自信」「自由」の3つの権利を守ることができるような児童の育成を図りました。【子どもの安全対策推進事業 223205】



CAP講習会のようす

幼児・児童・生徒への人権教育等の推進

学校園においては、「伊丹市人権教育基本方針」に沿って、命を大切にできる心や自尊感情等「生きる力」を育成するため、幼児・児童・生徒の発達段階や実態に応じて教育活動全体を通じて指導を行いました。保育所(園)においては、「伊丹市人権保育基本方針」に基づいて、子どもを権利の主体ととらえ、人権を尊重する保育に取り組みました。

就学前の園児に、あいさつや早寝早起き等の生活習慣や、生活上のきまりを守る等の社会性や自制心を身につけるための約束事を守ることにより、基本的な生活習慣の定着や規範意識の形成を図るため、「いたみっこのおやくそくカード」を作成しました。【いたみっこのおやくそくカード作成事業 211220】

中学校2年生1,804人を対象とした地域に学びともに生きる心や感謝の心を育む「トライやる・ウィーク」、小学校5年生1,995人を対象とした学習の場を教室から自然の中へ移した4泊5日の「自然学校」、小学校3年生1,955人を対象とした「環境体験事業」を実施しました。【トライやる・ウィーク推進事業 222107】【自然学校推進事業 222105】【環境体験事業 222104】



いたみっこのおやくそくカード

東中学校では、人権擁護委員が参加して、中学生との「人権トーク」を開催しました。また、全国人権擁護委員連合会が主催する全国中学生人権作文コンテストには市内から4,406

件(対前年比 964 件増)の応募がありました。【伊丹人権擁護委員協議会事業の助成 921119】

中学生人権トークに参加して

平成 23 年 12 月 17 日、東中学校(ファミリーサポーターズ、学校支援地域本部)と伊丹人権擁護委員協議会が共催し、「中学生トーク」を行いました。「土曜学習」に参加の1・2年生約 30 人、大学生のリーダー約 10 人、人権擁護委員 5 人が参加。「中学生夢を語る」というテーマのもと5班に分かれ、それぞれの夢を大いに語り合いました。生徒たちの生の声を聞くことができ大変良かったと思います。また、人権擁護委員の説明や「中学生人権作文コンテスト」の感謝状の贈呈も行いました。(人権擁護委員)

小・中学校から人権作文・ポスターを募集し、計 6,278 人の応募がありました。優秀な作品は人権週間記念作文集にまとめ学校園に配布し、様々な人権課題について考える機会を持ちました。【人権作文・ポスター募集事務 921122】

中学校ブロックごとに小・中・特別支援学校教員が人権教育の実践交流を行い魅力ある授業の創造をめざしました。伊丹市人権・同和教育研究協議会の就学前部会や進路保障部会は、さまざまな人権課題についての講演会や学習会などを開催し、資質の向上を図りました。【伊丹市人権・同和教育研究協議会 921102】

児童虐待防止の取り組み

児童虐待の早期発見、被虐待児童の保護、自立への支援を目的とする「児童虐待防止事業」において伊丹市要保護児童対策地域協議会のもと、代表者会議・主管者会議・合同担当者会議をそれぞれ開催するとともに、要保護児童等に対する協議を行う個別ケース検討会議を 157 回開催し、関係機関の連携・協力のもと、児童虐待防止に努めました。

また、「こどもの虐待防止マニュアル」を改訂し、関係機関に配布しました。平成 23(2011)年度には 370 人の児童虐待報告を受理し、処遇検討会議を開催して早期対応に努めました。

【児童虐待防止事業 211101】

市と伊丹市地域保護児童対策協議会は講演会「虐待のない社会を目指して『地域で見守る子育て』」を開催しました。講師は、子ども虐待防止センター・しずおか代表の鈴木潔さんで、児童虐待の現状や親子・地域のふれあい等をテーマに、民生委員児童委員など 259 人の参加がありました。

養育者の育児不安や虐待の恐れのある家庭の早期発見と支援を行うため 4 ヶ月までの乳児のいる家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」で 1,979 件の訪問を行いました。さらに、育児、身体の発育・発達、栄養などの悩みに対して、気軽に相談できる窓口「すくすく育児相談」を設け 608 人の相談を受けました。【こんにちは赤ちゃん事業 212203】【すくすく育児相談事業 212304】

いじめ問題への対応

いじめから子どもを守るために、本年度も伊丹市青少年問題協議会「いじめ問題対策部会」を開催し、いじめのない地域社会づくりの構築について協議を行いました。【青少年問題協議会運営事務 213111】

また、毎年7月を「伊丹市いじめについて考える強化月間」とし、市民とともにいじめについて考える機会を持っています。

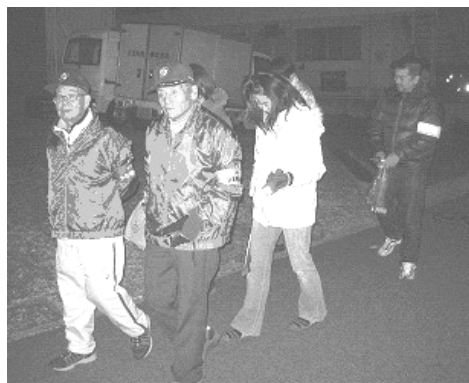
いじめや虐待などを受け、親や先生、友達にも相談できずに手紙を書くことで悩みを訴える子どもたちの人権問題を、人権擁護委員が学校や関係機関とも連携を取りながら解決を図る「子どもの人権SOSミニレター」事業には平成23(2011)年度、法務局伊丹支局管内で109通の手紙に返信対応しました。【伊丹人権擁護委員協議会事業の助成 921119】

また、ネットいじめに対応するため「伊丹市ネットいじめ対応マニュアル」を作成、小学5年生とその保護者に配布し、防止に努めました。【こどものいじめ問題対策推進事業 222205】

子どもの非行防止、健全育成活動の推進

伊丹市青少年問題協議会「少年非行防止部会」を本年度も開催し、非行防止の取り組みについて協議を行いました。【青少年問題協議会運営事務 213111】

また、青少年の非行防止と健全育成のため、少年愛護センターを中心に各関係機関が連携して各事業を展開しました。少年愛護センターでは、青少年の健全育成に関する広報・啓発を目的として、毎月1回、5,200部の「センター通信」を各学校、警察、自治会などに配布しました。さらに、少年補導委員延べ6,240人が「青少年街頭補導活動」を展開し、子どもの非行防止、健全育成に寄与しました。【青少年健全育成関係広報啓発事業 213106】【青少年街頭補導事業 213104】



少年補導委員による補導活動

また、青少年をとりまく有害環境の浄化を進めるため、白ポストによる有害図書の回収や環境の浄化に努めました。【青少年健全育成・環境浄化事業 213105】

障がいのある幼児・児童・生徒への支援

特別支援教育の推進として、教育、医療、福祉、労働等の関係機関の担当者が集まり、乳幼児期から学校卒業まで一貫した支援を行うためのサポートファイル・個別の支援計画「ステップ ぐんぐん」の活用や連携のあり方について研究協議しました。発達支援・早期療育に関する観察、相談を実施するサテライト事業「たんぼぼ」において、発達が気になる子どもとその保護者への育児支援を行い、平成23(2011)年度の体験保育利用者延べ912人、専門相談54回、研修を6回行いました。【早期療育・支援相談サテライト事業 211308】

小・中学校においては通常学級に在籍し、発達に支援を要する児童生徒に対し、小・中学校に「特別支援教育支援員」を配置し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行いました。【特別支援教育支援員配置事業 221506】

自然とのふれあいや社会性を養うことなどをめざして、伊丹特別支援学校小学部児童5人、中学部生徒6人を対象に1泊2日で「障害児の自然体験活動」を、また伊丹特別支援学校及び小中学校特別支援学級の児童生徒85人が、「なかよしキャンプ」を行いました。【障害児の

自然体験活動推進事業 221504】【なかよしキャンプ事業 221502】

さらに、就学指導委員会では、保護者との十分な話し合いのもと、幼児・児童・生徒の実態に応じた適切な就園相談 89 件・就学相談 152 件に対応し、就園・就学先との連携を進めました。【就学指導委員会事務 221505】

家庭の子育て支援の推進

「教育の原点は家庭にある」という視点のもと、家庭の教育力を向上させるため「だんらんホリデー」を市民ぐるみで行うとともに、「家庭教育学級」を開催し、4 ヶ月児健診時 1,914 人、3 歳児健診時 1,895 人、小学校入学説明会時 3,726 人、中学校入学説明会時 1,899 人の保護者に家庭教育の大切さを啓発しました。【「家庭の日」だんらんホリデー事業 212106】【草の根家庭教育推進事業 212102】

地域において、育児の援助を行う者と受ける者を会員として登録・紹介し、会員相互援助活動を支援する「ファミリーサポートセンター事業」を実施し、安心して育児ができるような環境整備を図りました。会員数は協力会員 391 人、依頼会員 1,430 人、両方会員 378 人、計 2,199 人で、学童保育の迎え、帰宅後の預かりなどを行いました。【育児ファミリーサポートセンター事業 212214】

さらに、子育てに関する相談や子育て中の親子の出会いの場とする「地域子育て支援拠点事業」を市内 6 ヶ所で計 104,302 人が利用し、また、幼稚園や保育所・地域における親子交流の場である「みんなのひろば事業」へ 17,761 人、親子が集団のなかで育ちあい学びあう場である「そだちのひろば事業」へ 4,007 人が参加したほか、子育てボランティアの育成支援や子育てサークル支援事業などさまざまな子育て支援事業を実施しました。【地域子育て支援ひろば事業 212210】【子育て支援センター事業 212206】

相談体制の充実と周知

高度な専門的知識や経験を有する臨床心理士をスクールカウンセラーとして全市立小・中・高等学校に配置し、児童生徒をはじめ教職員や保護者のカウンセリングを行うとともにスクールソーシャルワーカーを派遣するなどして総合的な相談体制を構築しました。【スクールカウンセラー活用事業 222203】【スクールサポート事業 222201】

少年愛護センターでは、「なやみの相談」クリアファイルを 11,500 枚作成し、市立小学校 1・5・6 年全児童及び中学校全生徒に、また、手渡しカードを 5,900 枚作成し、小学校 2・3・4 年全児童に配布し相談活動の PR を行いました。また、不登校や問題行動を示す児童生徒について総合的・専門的な見地から合同教育相談を実施し、延べ 15 人の相談を受けました。さらに、少年進路相談員が進路変更や再就職への相談活動として、延べ 239 人について、情報交換や相談を行いました。【青少年問題相談事業 211501】

家庭児童相談室においては、児童虐待等子どもを取り巻くさまざまな問題に対し、家庭その他から 1,369 人（延べ 7,169 件）の相談に応じ、必要な援助を行い、子どもの福祉と権利の擁護に努めました。【家庭児童相談室事業 211102】

(3) 高齢者

高齢者の尊厳を保持する啓発の推進

高齢者を介護している家族や民生委員等を対象に、介護方法・介護予防・介護者の健康づくり等についての知識・技術を習得することを目的として、家族介護教室を開催し、361人の参加がありました。【家族介護教室事業 132217】

認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する認知症サポーター養成講座の講師を務めるキャラバン・メイトの養成研修を行い、27人のキャラバン・メイトを養成しました。【認知症相談支援等事業 132225】

共に生きる社会を目指す福祉教育の推進

小学校において、社会科や総合的な学習の時間に地域の高齢者から昔の話や遊びについて聞く会を位置づけ交流を図りました。さらに、七夕の集いや体育大会などの行事に地域の高齢者を招待したり、一緒に給食を食べるなど各学校の実態に即した取り組みを行いました。

高齢者の権利擁護の推進

平成 23(2011)年 4 月、市内 8 つの社会福祉法人の協働により伊丹市福祉権利擁護センター(事務局は伊丹市社会福祉協議会)が設置され、認知症や精神障がい、知的障がい等により判断能力に支援が必要な人が住みなれた地域で安心して暮らすことができるよう、相談や支援をはじめ、権利擁護の人材育成や広報・啓発に取り組んでいます。

また、親族による支援を得ることが困難な要援護者等については、市長から成年後見の審判開始の申し立てを行い、自立した日常生活を営むことができるよう環境整備を行いました。【成年後見制度利用支援事業(高齢者) 131303】

なお、平成 24(2012)年 1 月には福祉権利擁護センター主催で「権利擁護市民講演会」を開催し、落語やトークを通して権利擁護について学ぶイベントに 146 人の参加がありました。

高齢者虐待の防止については虐待防止マニュアルに基づき、市高年福祉課、地域包括支援センターを中心に各関係機関が連携して、高齢者虐待防止ネットワークを形成し虐待の早期発見と対応に取り組みました。

高齢者の社会参加、生きがいづくり、就労のための支援

老人クラブが行う生きがいと健康づくりのための活動に対して補助し、地域を基盤とする高齢者の社会参加を支援しました。【老人クラブ等補助事業 132301】

また、高齢者の就業機会を確保し、知識と経験の活用と社会参加の促進を図るため、シルバー人材センターの活動に対して補助しました。シルバー人材センターは会員数が年々伸び



福祉権利擁護センター

ており、会員の増加に対応する新たな就業の機会として、平成 23(2011)年度には、せん定枝葉をチップ化する「緑のリサイクル事業」に向け、緑化推進活動の取り組みに着手しました。

【就労支援事業 132305】

福祉のまちづくりの推進

市民・事業者等との協働により、地域社会における支え合い活動体制の整備を行いました。59の事業所と地域見守り協定を結んだほか、救急情報キットの配布、地域ふれ愛福祉サロンの整備を行いました。【地域支え合い体制づくり事業132227】

相談体制の充実と周知

地域包括支援センターと市内 9 ヲ所の介護支援センターでは、高齢者の権利保護をはじめとして、介護、福祉サービス、健康維持など暮らしに関わるさまざまな相談を受け付けました。【地域包括支援センター運営事業 132202】

また、認知症にやさしい地域づくりをめざすことを目的として、認知症に関する相談を受け付けました。【認知症相談支援等事業 132225】

(4) 障がい者

自立と社会参加の促進を目指す啓発等の推進

障害者福祉センター（アイ愛センター）を障がい者施策の中核施設として、福祉情報の提供、交流・啓発事業、生活支援事業など、障がい者の自立と社会参加の促進を図る様々な事業を展開しました。

交流・啓発事業として、12月3日から9日までの障害者週間にあわせて、障がい児・障がい者の作品展を平成 23(2011)年 11 月 30 日から 12 月 8 日まで開催しました。また、12 月 10 日には障がい者フェスティバルを開催しました。障がい者による出し物、もちつき、フリーマーケット等を通して交流を図り、延べ 400 人の参加がありました。【障害者福祉センター管理運営事業 133103】



障がい者フェスティバル

市と伊丹市障害者地域自立支援協議会などは「伊丹市障がい者自立支援講演会『つながりのかたち』」を開催し、キリマンジャロ登山など多彩な活動を続ける立木早絵さん(視力障がい者)の講演などを行い、民生委員や身体障害者連合会会員など 223 人の参加がありました。

また、市内で行われる講演会や研修会では、聴覚障がい者も参加できるように手話奉仕員と要約筆記奉仕員を派遣しており、平成 23(2011)年度は 463 件の派遣を実施しました。

また、市内で行われる講演会や研修会では、聴覚障がい者も参加できるように手話奉仕員と要約筆記奉仕員を派遣しており、平成 23(2011)年度は 463 件の派遣を実施しました。

障がい者の権利擁護の推進

障がい者が住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らすことができるよう、地域生活支

援センターでは、障がい者の総合的な相談や情報の提供に応じ、福祉サービスの利用等をはじめとする生活支援を行いました。また、判断能力が十分でない障がい者の権利を守るため、市内社会福祉法人の協働により開設された、伊丹市福祉権利擁護センターにより、必要な相談支援、権利擁護の人材育成、広報啓発活動が行われました。【地域生活支援センター運営委託事業 133104】【成年後見制度利用支援事業（障がい者）131304】

就労等自立支援への取り組み

就労意識や能力の向上を図るため、市役所等で一定期間、洗車や事務作業を体験してもらったり、障害者福祉センター等の清掃・維持管理業務に就労の場を確保するなど、障がい者の就労を支援しました。【障がい者就労チャレンジ事業 133301】【障害者就労支援事業 133307】

豊中伊丹スリーRセンターにおける再生可能資源の選別業務部門に障がい者雇用の場の創出を目指し、本市と豊中市他関係機関による継続した協議・検討を経て、業務を受託する株式会社が創設され、知的障害者 30 人（うち伊丹市 13 人）を雇用し、一般就労した障がい者数が増加しました。

福祉のまちづくりの推進

障がい者が住み慣れた住宅で安心して自立した生活を送ることができる環境を整備するため、既存住宅の、障がいに対応した改造に要する経費を助成しました。平成 23(2011)年度は 4 件の利用がありました。【障がい者住宅改造費助成事業 133211】

相談支援体制の充実と周知

市内 4 カ所に相談支援事業を委託し、障がい者やその家族などからの相談に応じ、必要な情報提供や生活全般に関する相談支援を行いました。平成 23(2011)年度には 2,797 件の相談がありました。【障がい者相談支援委託事業 133102】

（５）同和問題

人権を尊重する教育の推進

法の下での平等や個人の尊重等人権一般の普遍的な視点からの取り組みや個別の人権課題を総合的に推進することが求められています。人権教育は、今までの同和教育で培ってきた成果を生かし取り組んできました。とりわけ、保育や教育に携わる者が、同和問題を正しく認識することが重要であるとの考えのもと新規採用教員等人権教育研修会を人権啓発センターで行い、76 人の参加がありました。また、学校園において人権教育指導員等当事者の話を聞いたりグループ討議をしたりして識見を高め、教育活動に生かしました。【人権研修事業 223303】

差別意識の解消に向けた啓発の推進

人権フェスティバルにおいて、人権啓発センター『ふらっと』で第24回人権講演会を実施しました。大阪市浅香地区まちづくり協議会会長の山本義彦さんが「にんげんの街を目指して」と題して、自らの経験から部落だけでなく、すべての人が大切にされるまちづくりの実践について講演。前後には浅香の太鼓集団「獅子」による和太鼓演奏も行われ、294人が参加しました。



人権フェスティバル

交流・協働の推進

ふれあいセンターにおいて、健康体操やビリヤード、囲碁、将棋、人権学習会などを通して、高齢者が集い、人権と健康を大切にするふれあい交流の場としての事業を実施しました。年間延べ8,482人の利用がありました。【交流センター管理運営業務921115】

また、ふれあいセンター1階の浴場では、住民のふれあい交流を通して共生社会の形成を図り、30,654人の利用がありました。【ぎょうぎ温泉管理運営事業921114】

事業者等の啓発活動の推進

伊丹市人権・同和教育研究協議会企業部会には市内65企業が加盟し、同和問題をはじめ、様々な人権課題に対する啓発を進めました。部会の総会では、発達障害を考える会TRYアングル理事長の宇和川美保さんを講師に招き、「特別支援教育～支援と社会参加～」と題して講演会を開催しました。特別な支援を要する子どもたちが学校教育から離れ社会へ出たとき一人の人間として自立し、社会参加するために企業との関わりはどうあるべきかについて講演いただき、企業として発達障がい者との関わりについて考える機会としました。【伊丹市人権・同和教育研究協議会921102】

人権啓発センターにおける活動の推進

識字教室や市民パソコン教室、パソコンクラブ、交流カラオケ教室並びに市民健康教養教室などの人権文化市民講座を実施しました。【人権文化市民講座・啓発事業 921112】

子どもたちが体験から学ぶ人権講座（ジョイントクラブ）として、小・中学生を対象に創作活動や地域の伝統文化を学ぶ場として太鼓クラブや三味線クラブを開設しました。また、児童・生徒の身近な人権課題への学習、取り組みを通して子どもの豊かな感性を育成するスマイルクラブを開設し、あわせて延べ1,900人の参加がありました。【地域に学ぶ体験学習支援事業 921117】

小・中学校の保護者や市民を対象に、創作活動・ワークショップ等を通して人権学習を行いました。グループ合同の様々な参加体験型人権学習会や全体会を実施し、延べ180人の参加がありました。また、家庭・地域・学校・行政の4者が参加する学習交流会で子どもを取り巻く大人の連携を図り、延べ199人の参加がありました。【学習交流育成事業 921118】

相談体制の充実と周知

人権啓発センターでは、住民の生活上のさまざまな相談や人権に関わる相談に応じて、行政サービスや制度などの情報を提供し、必要に応じて関係機関への紹介などを行い、延べ 271 件の相談に対応しました。また、人権啓発センターでは、人権擁護委員による人権相談を月 1 回実施しました。【生活福祉等相談事業 921109】【人権擁護委員協議会事業の助成 921119】

インターネット掲示板上の差別書き込みなど人権侵害事象に対応するため、モニタリング活動を実施し、法務局等関係機関と連携しながら対応を図りました。【インターネット掲示板モニタリング 921101】

(6) 外国人

国際化にふさわしい人権意識の育成を目指す啓発推進

多文化共生のまちづくりの推進のため、国際・平和交流協会との連携により各種事業を行いました。主な事業として中国語講座(3 コース 107 回)、日本語学習サロン(41 回)を開講し、延べ 2,114 人が参加しました。また、外国人市民交流花見会、通訳ボランティア研修会、異文化理解講座(邦楽体験講座 = 17 人、外国人から見た被災地の人々 = 33 人、

韓国・中国・日本の生活事情の相違 = 19 人)を開催し、それぞれに異文化・国際理解を深めました。【外国語・日本語講座事業 921402】【国際・平和交流協会支援事業 921413】



日本語学習サロン

多文化共生教育の推進及び外国人児童・生徒への支援

市内小・中・特別支援学校国際理解教育担当者会において、異校種間で研修を実施しました。各学校においては、道徳、各教科、総合的な学習の時間等において、地域の人材を活用した外国人の講演会や諸外国の料理や遊びによる体験学習や調べ学習等を通して、児童生徒の多文化共生教育を推進しました。また、伊丹朝鮮初級学校において、授業参観や校長講話(学校の取り組み)を通じた研修会を開催するなど外国人学校との交流を進めました。さらに、伊丹市国際友好都市の中国・佛山市との交流を積極的に行い、学生間の交流を深めました。【佛山市学生代表团受入及び中学生派遣事業 921407】

日本語指導や適応指導を必要とする外国人園児児童生徒が在籍する学校園に対して適応指導員を派遣し、個別指導及び同室複数指導を行うとともに、心のケア等の支援を行いました。指導員 13 人を、幼稚園 3 園、小学校 9 校、中学校 7 校、高等学校 1 校に派遣し、中国語 15 人、フィリピン語 6 人、韓国・朝鮮語 4 人、ポルトガル語 1 人、インドネシア語 1 人、ベトナム語 1 人、スペイン語 1 人、タイ語 1 人の計 30 人の園児児童生徒に日本語指導・適応指導を行いました。【外国人児童生徒受入事業 921406】

出会いと交流の場づくり

外国人市民と日本人市民との相互理解と交流を進めるため、市と実行委員会の共催により伊丹マダンを開催しました。ひろばでは、5カ国の音楽・舞踊の舞台発表や9カ国の民族料理出店、こどもフリーマーケットなどがあり、約4,200人が集う出会いと交流の場となりました。【伊丹マダン企画運営事業 921409】

また、伊丹市民団27人が国際友好都市の中国・佛山市を訪問して60歳以上の高年大学生との文化交流を行い、異文化理解と国際感覚の涵養を図りました。【姉妹都市・友好都市交流事業 921414】

就労・住宅問題への取り組み

就労相談件数は3件で、求人票申請に関する相談と労働基準監督署への相談内容が主でハローワークと連携した支援を行いました。また、住居相談件数は8件で、公営住宅の申請や入居者の相談で通訳業務をしながら対応を図りました。

市政への参画の推進

本市の人権施策について意見を述べる場である伊丹市人権教育・啓発推進会議において、外国人市民1名が委員に就任しています。また、人権教育指導者として外国人市民の理解・啓発を行う講師として2名が指導員となっています。

相談体制等の充実、日本語学習及び多言語情報提供の推進

市が受けた相談件数は133件で、仕事・給料問題3件、税金・保険・年金37件、医療21件、生活21件、育児・学校16件、家庭・婚姻問題6件、在留資格9件その他6件などの相談となっています。相談内容は、日本語が不十分なため日本文化や制度への不理解などによるものとなっていました。【外国人生活相談支援事業 921412】

また、多言語情報提供として、市ホームページの自動翻訳システムで4言語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語）を平成23(2011)年10月に導入し、1,320件のアクセスがありました。また、外国人の希望者129人（中国63人、英語21人、ハンガール20名、ポルトガル25人）に対し生活情報紙を3回郵送すると共に転入者に対し生活ガイドブックの配布を行いました。【外国人市民用生活情報誌提供事業 921410】【通訳業務 921411】

（7）H I V感染者・ハンセン病患者等

各校において性教育や保健指導を実施したほか保健室便りなどを通じて、子どもたちに正しい知識・情報を伝え、エイズを含め感染症の予防と感染者等への偏見や差別をなくすよう、指導しました。【学校保健指導助言事務 222311】

(8) 高度情報化社会の進展に伴う人権問題

学校等における情報モラルの育成

子どもを取り巻く携帯電話やインターネットの影の部分について実際に事例を交えながらの指導や、家庭への啓発を行いました。また、「ネットいじめ対応マニュアル」を作成し、小学5年児童とその保護者に配布するとともに、携帯電話やパソコンによるいじめについて啓発し、未然防止に努めました。【こどものいじめ問題対策推進事業222205】

また、夏季休業中に中学校教員を対象にインターネット掲示板モニタリング研修を開催し、インターネット上の人権侵害事象等について共通理解を図りました。【インターネット掲示板モニタリング 921101】

インターネット上の人権侵害事象への適切な対応

インターネット掲示板の差別書き込み等の早期発見と拡散防止を図るため、伊丹市及び伊丹市民に関する事象を対象に、インターネット掲示板のモニタリング活動を年間12回実施しました。モニタリングには人権研修の一環として55人の職員及び教員が参加し、実態把握と人権意識の向上を図りました。【インターネット掲示板モニタリング 921101】



インターネット掲示板モニタリング研修

(9) その他の人権課題

犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする法務省主唱の全国的な運動、「社会を明るくする運動」を実施しました。7月を強調月間とし、「啓発パレード」(参加人数475人)、「ジョイフルコンサート」(同402人)など様々な啓発活動や「小中学生の声を聞く会」(同96人)、「公開ケース研究会」(同100人)などの青少年健全育成事業を行いました。【社会を明るくする運動事業 131102】

伊丹市人権・同和教育研究大会では、京都府立高校教員の土肥いつきさんが「『ありのままのわたしを生きる』ために」と題して、自らの経験をもとに、性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)だけでなく、多様な存在を認め、誰もが生きやすい社会作りについて講演しました。【伊丹市人権・同和教育研究協議会 921102】

本市における自殺予防対策を推進するため、伊丹市自殺予防対策庁内連絡会議において事務事業の連絡調整や情報収集等を行いました。平成23(2011)年10月11日、精神科医の名越康文さんを講師として、「こころの健康市民講座」を開催しました。市民など398人が参加し、「今を生きる力」をテーマにうつに向かわないための具体的な方策を学びました。また、市職員等を対象に、大阪自殺防止センター職員等から、相談活動の事例を通して自殺ハイリスク者への支援方法などを学びました。【自殺を防ぐために市内における相談支援体制の整備・充実 121112】

3 . 人権を守る取り組み（人権相談）

市民相談課及び人権推進課等で人権に関する相談に応じ、必要に応じて関係機関等と連携し対応しました。

このほか、常設人権相談（神戸地方法務局伊丹支局）人権擁護委員相談日（第3木曜、午後1時～4時、伊丹市役所市民相談課、第2木曜午後1時～4時、人権啓発センター）全国一斉「人権擁護委員の日」特設相談所開設（平成23(2011)年6月1日、中央公民館）人権週間行事・特設相談（平成23(2011)年12月5日、いたみホール）を開設しました。平成23(2011)年度の相談件数は10件でした。

このほか、人権擁護委員等による「子どもの人権110番強化週間電話相談」（平成23年6月27日～7月3日。電話0120-007-110）全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間（平成23年9月5日～11日）「女性の人権ホットライン強化週間電話相談」（平成23年11月14日～20日。電話0570-070-810）についても「広報伊丹」等で周知に努めました。【伊丹人権擁護委員協議会事業の助成 921119】

4 . あらゆる場における人権教育・啓発の推進

（1）保育所(園)・幼稚園・学校

保育所(園)・幼稚園においては、幼児期における教育や保育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要性に鑑み、遊びを中心として、生活を通じて人権尊重の精神の芽生えを育むよう実践しました。特に、動植物を育てる活動や劇遊び創作活動などを通して、命を大切にすする心や自尊感情の育成、他の人を思いやる心を育んできました。また、教育や保育に携わる教職員自らが啓発者としての自覚を持ち、保護者会や家庭訪問などあらゆる機会を通じて教育することを目的として、伊丹市人権・同和教育研究協議会就学前部会に所属し、「就学前教育の条件を高め、教育(保育)内容をどのように創造していくか」をテーマに5ブロック(東・西・南・北・中央)に分かれて、各ブロックごとに啓発・研究活動を行いました。また、6月には、神戸常盤大学短期大学部教授の上田素子さんが「絵本を通して幼児期の子どもたちに人権意識を育てる」と題して講演し、全体研修会を行いました。

学校においては、全教育活動の推進に人権教育が根底にあるとの認識を持ち、人権教育推進全体計画を作成し各学校の実態にあった指導を進めました。なかでも子どもの権利条約をふまえた学級活動、特別活動を行うとともに、いじめ、児童虐待、インターネット上の掲示板や携帯メール等による人権侵害等今日的な課題の解決に向けた取り組みを進めました。また、主体的・実践的に学習に取り組むことができるよう参加体験型学習や様々な人との交流、ボランティア活動などを盛り込みました。

さらに、小学校では年間1回は保護者参観日に人権をテーマにした授業を行い、保護者とともに考える場を持ちました。

(2) 家庭・地域・職域

家庭は、教育の出発点であるとの考えから、親子で参加できる人権研修の実施や子育てサークルなどへの指導員派遣や啓発ビデオの貸し出しを行いました。伊丹市人権・同和教育研究協議会で実施した講演会の内容を広く周知するため、平成23(2011)年度は、京都府立高校教員の土肥いつきさんの講演及び、気象予報士の正木明さんの講演を「ひかり」第38号に掲載し、配布しました。さらに、人権作文や人権ポスター、人権啓発標語の優秀な作品を掲載した人権週間作文集を配布し、家庭や地域においても人権について考えていただく機会を設けました。

地域においては、各小学校ブロックの伊丹市人権啓発推進委員34人が中心となり、地域の实情にあわせて、高齢者問題を題材にしたビデオや情報化社会を題材にしたDVDなど市の視聴覚教材を活用したミニ人権研修会を開催し、人権意識を高める活動を行いました。【人権啓発推進委員会 921105】

参加者の感想 伊丹市人権啓発推進委員主催のブロック別ミニ人権研修

(人権啓発ビデオ「クリームパン」をみて)

・人として一番大切なことだけに理想と現実がずいぶんかけ離れすぎて難問だと思います。根本的なことを考えていかなければならないことで時間をかけて何が悪いのか追求していかなければならない問題であると思います。

・少しでも虐待をなくすために、勇気を持って(おせっかいでもいい)実践していこうと思った。

・児童相談所の大切さ、周りの大人の援助などみんなで社会を作っていく姿勢が大切と感じた。

事業者については、人権尊重の取り組みや社会的貢献活動について考えるため、伊丹市人権・同和教育研究協議会企業部会が中心となって講演会の開催や研究大会において「人権のヒント職場編」のビデオを視聴して各社での取り組み事例を発表し、参加者相互で意見交換などを行いました。【伊丹市人権・同和教育研究協議会 921102】

加えて、各種団体や事業者等が主体となって行う人権研修会へ参加体験型学習やグループワークの助言者として人権教育指導員を派遣し、さまざまな人権課題について考える機会を持ちました。【人権教育指導員派遣事業 921106】

(3) 市職員等に対する研修

すべての行政職員が、人権尊重の理念を基礎として市民の視点に立って職務が遂行できるよう、さまざまな研修を実施しました。新規採用職員研修は、59人を対象として、伊丹市の人権施策について学んだほか、リバティおおさかの見学、伊丹市人権教育指導員の助言・指導によるグループ討議などを行いました。職場人権研修は、さまざまな人権課題の中から各

部署でテーマを選択して研修を行い、延べ2,000人が参加しました。職階別研修は、主任、主査、副主幹、課長級の職階別に137人を対象として、差別を許さない都市宣言制定記念市民集会、人権学習指導者養成講座、人権フェスティバル等への参加や、伊丹市人権教育指導員を講師に招いての人権研修など、様々な機会を通じて人権研修を行いました。

保育士については、全体研修として「子ども一人ひとりを大切にするために考えられる事は」をテーマに、伊丹市人権教育指導員によるグループ討議と講話を実施しました。市内公私立の児童福祉施設職員253人が参加し、グループでの意見交換を通して子どもの人権について学ぶ機会を持ちました。

教職員の研修としては、人権啓発に関わる諸行事、人権教育研修会、中学校ブロック別人権研修会に主体的に参加することにより、自らの人権意識の高揚に努めました。さらに、新規採用職員研修を2回実施したほか、2年目の教員を対象に人権研修会として講演会（参加者61人）を開催するなど、多様な研修を行いました。【人権研修事業 223303】

中学校ブロック別人権研修会

ブロック	内 容
東中ブロック	授業参観（国際理解、同和問題、共生） 講演会（国際理解、障がい者）
西中ブロック	授業参観（障がい者、多文化共生） 講演会（障がい者、さまざまな人権）
南中ブロック	授業参観（さまざまな人権、障がい者） 講演会（特別支援教育）
北中ブロック	授業参観（障がい者、さまざまな人権）
天中ブロック	講演会（障がい者、同和問題、さまざまな人権）
松中ブロック	授業参観（さまざまな人権） 講演会（障がい者、国際理解）
荒中ブロック	授業参観（さまざまな人権） 講演会（同和問題、さまざまな人権）
笹中ブロック	授業参観（さまざまな人権、同和問題） 講演会（さまざまな人権）

5 . 総合的・効果的な推進等

(1) 全庁的な推進体制

「伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針」に基づく初めての年次報告書「伊丹市人権教育・啓発白書」を作成し、市長を本部長とする伊丹市人権教育・啓発推進本部において報告し、関係課へも配布するなど、本市における人権教育・啓発の総合的かつ計画的な推進を図りました。

また、本部会議に先立っての幹事会の開催等、関係課の連携・協力を努めながら人権教育・啓発の着実かつ効果的な推進を図りました。【「伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針」の推進 921104】

(2) 関係機関等との連携・協力、市民の参画と協働

伊丹市人権・同和教育研究協議会は、8 専門部会で組織し各部会で人権課題について研修を深めてきました。全体では、第 58 回兵庫県人権・同和教育研究大会阪神地区大会(開催市)の開催、市民集会への参画、研究大会(全体講演会『『ありのままのわたしを生きる』のために』(講師は京都府立高校教員の土肥いつきさん)と 10 分科会)等、延べ 3,248 人が参加しました。【伊丹市人権・同和教育研究協議会 921102】

地域では、小学校ブロックごとに自治会から推薦を受けた 34 人の伊丹市人権啓発推進委員が中心となって、地域の実情に応じて様々な人権課題について、市の視聴覚教材を活用しながらミニ人権研修会等を実施しました。また、推進役となる委員は、自己研鑽のためリバティおおさかや生野銀山への管外研修を行いました。【人権啓発推進委員会 921105】

各種人権関係団体や公募市民からなる伊丹市人権教育・啓発推進会議を 3 回開催し、「基本方針」の実施状況、人権啓発センターの運営等について意見を聴取し、様々な人権課題に対して、事業・施策の効果的な推進を図りました。【伊丹市人権教育・啓発推進会議 921123】

法務局伊丹支局及び本市 9 人の人権擁護委員と協力して、人権相談窓口の開設、憲法週間や人権週間における街頭啓発などを行いました。【伊丹市人権擁護委員協議会事業の助成 921119】

(3) 人権啓発センターの取り組み

人権啓発の拠点として、識字教室や市民パソコン教室、パソコンクラブ、交流カラオケ教室並びに健康教養教室など人権文化市民講座を実施しました。特に平成 23(2011)年度は、東日本大震災関連をテーマに講演会「福島原発！ 今何が起きているのか」「福島原発震災 四カ月後の現状」を実施しました。人権啓発パネル展では、「部落問題を考える」、「命と性を考える」「人権ポスター・標語」を展示しました。人権啓発映画会では、「布川事件」を題材にしたドキュメンタリー映画「シヨージとタカオ」の上映と出演者の桜井昌司さんの講演を実施するなど、様々な視点から人権と私たちの暮らしを見つめ直す機会としました。

【人権文化市民講座・啓発事業 921112】

また、人権啓発ビデオなど視聴覚教材や人権啓発図書資料など、人権に関する情報の収集・貸し出し、事業紹介等ホームページの充実や『ふらっと』通信の発行など多くのチャンネルを使った積極的な情報発信を行いました。【人権情報の収集・提供事業 921110】

児童館事業では、「ひだまりひろば」として未就学の子どもとその保護者のための子育て支援事業を実施し、交流の場を提供するとともに、豊かな感性を育むためにエプロンシアターやパネルシアターなど、日々のミニイベントも工夫を凝らしました。さらに、「リトミック」



人権啓発パネル展

「育児相談」「おもちゃづくり」「おはなしかい」などを開催しながら人権を大切にする親子関係の育成や交流を深めました。また、「ニコニコ広場」として小学生を対象に子どもの居場所づくり事業を実施し、あそび場を提供するとともに、ゆったりとした気持ちの中で相手を思いやる心を育てる事を意識しながら、「むかしのあそび」「グラウンドゴルフ」「カプラであそぼう」「人権かるた大会」などミニイベントを実施し、一人ひとりの人権の大切さを学ぶ取り組みを行いました。【子育て支援事業 212201】【子どもの居場所づくり事業 211414】

さまざまな人権課題とあらゆる差別解消に向けた取り組みを積極的に展開している特定非営利法人伊丹人権啓発協会にセンター事業の一部を委託し、給食サービス、人権生活相談、太鼓など各種伝統文化講座、手芸などの創作活動、人権講演会、人権ネットワークの構築などの事業を実施し、市民力、地域力を活用した啓発活動を行いました。【人権文化啓発等委託事業 921111】

(4) 内容・方法の充実

多くの市民が人権課題への興味・関心を高めることを目的として、人権作文・標語・ポスターの募集を行い、市民の積極的な参加を図りました。作文 5,653 点、標語 2,360 点、ポスター 625 点の応募があり、入選作品については「人権週間記念作文集」に収録し、幼児・児童・生徒を通じて家庭へ配布するなど、学習・研修資料として積極的な活用を図りました。

【人権啓発標語募集事務 921121】【人権作文・ポスター募集事務 921122】

「広報伊丹」においては、様々な人権・平和事業を紹介しました。平成 23(2011)年 8 月 1 日号には「語りつごう 戦争体験を」の特集記事を掲載し、伊丹ユネスコ協会相談役の三宅梢さんの体験記事を掲載するなど平和の大切さを訴えました。また、平成 23(2011)年 10 月から 12 月の各 1 日号には、伊丹市人権教育指導員の林やよいさんによるコラム「シリーズ人権尊重のまちづくり」を 3 回にわたって連載し、体験を通して「生命」や「人権」について考える機会としました。

教育広報紙「教育いたみ」では、「いたみっこのおやくそくカード(にこにこカード)」について特集しました。伊丹市人権・同和教育研究協議会と市教育委員会は、人権・同和教育だより「ひかり」第 38 号を 30,000 部発行し、学校園に配布するなど幅広く啓発に努めました。

コミュニティ放送「エフエムいたみ」では、全国中学生人権作文コンテスト伊丹地区大会の入賞者の声や最優秀作品の朗読を放送しました。ケーブルテレビの市広報番組「伊丹だより」では、市政情報コーナーで「伊丹市福祉権利擁護センター」や「人権について」をテーマとした番組が制作・放映されました。また、生徒会サミットや社会福祉大会、社会を明るくする運動の様子のほか、女性・児童センターや人権啓発センター、アイ愛センターなどの事業を紹介しました。



ケーブルテレビ収録

7・8月を平和月間、11・12月を人権月間として啓発パンフレットを作成、児童・生徒に配布するほか公共施設等にも配置し、関係課と連携して平和・人権啓発事業を実施しました。

市インターネットホームページ上では、講座やイベント情報、視聴覚教材の一覧、人権ポスター入賞作品を掲載するなど情報発信に努めました。

おわりに

平成 23(2011)年度を振り返るとき、平成 23(2011)年 3月 11日に発生した東日本大震災を抜きに語ることはできません。今なお、深い悲しみの中で多くの方が不自由な暮らしを強いられており、特に福島県では原発事故により大変な不安や心労を抱えています。

こうした状況の中にあって、この震災からの復旧・復興のために、多くの人々に支援と共感の輪が広がり、人と人との「絆」や「つながり」が再確認されました。これから復興したまちが築かれるにあたっては、人が人を大切に思い支えあう、差別や偏見を許さず、互いに意見の違いを認め合う、すなわち、人権に配慮したまちづくりが一層、求められるでしょう。そのことは、「多様性を認め合う共生社会」(伊丹市総合計画(第5次))を基本方針の一つに掲げる、本市のこれからのまちづくりのあり方にも大きく関わります。

今回の「特集 震災と人権」で取り上げた本市の様々な取り組みは、被災地の現状を知り、市民に支援と共感の輪を広げながら、命の尊さやボランティア精神、思いやりの大切さなど、人と人との「絆」を深めることの意味を考え、行動に結び付けていこうとするものでした。こうした取り組みを一過性のものとせず、差別や仲間はずれが起こらないためにも、「人権の尊重」という原点に立ち返って、本市のまちづくりに生かしていこうとする視点が大切です。

他方、東日本大震災に関連する課題以外にも、いじめや虐待、配偶者等からの暴力(DV)、インターネット上の書き込みによる人権侵害など、様々な人権問題が顕在化、深刻化しています。

改めて私たち一人ひとりが、人権についての理解と知識を深め、人権が尊重されるまちづくりに向けて歩み続けることの重要性を認識する必要があります。引き続き、多くの市民団体や関係機関の連携と協力、参画と協働により、市民が主体となった人権教育・啓発活動の推進に努めます。

本報告に挙げた取り組みのほか、これからも新たな人権課題に対し、市の取り組みが求められることが考えられます。新たな人権課題についてもそれぞれの問題状況に応じ、その解決に資する人権教育・啓発に取り組んでいくこととします。

本報告が啓発資料として市民・職員はじめ多くの皆さんに読まれることを期待し、各方面より忌憚のないご意見をいただきながら、本市の一層効果的な人権教育・啓発の推進に努めます。

伊丹市市民自治部共生推進室 同和・人権推進課
伊丹市教育委員会事務局 人権教育室

資 料

人権教育・啓発推進に関する数値の推移（伊丹市行政評価から）

指 標	21 年度	22 年度	23 年度
伊丹市人権・同和教育研究協議会関係研修会等への参加者数(人)	3,361	3,524	3,248
人権教育研修会参加者数(人)	7,490	3,688	4,359
視聴覚教材貸し出し件数(件)	251	252	251
人権文化啓発等委託事業参加者数(人)	1,380	1,467	1,531
人権文化市民講座・啓発事業参加者数(人)	1,111	2,415	2,292
人権センター・児童館来館者数(人)	45,034	55,442	55,839
ぎょうぎ温泉入浴者数(人)	32,777	31,523	30,654
ふれあいセンター利用者数(人)	8,574	9,303	8,482
地域に学ぶ体験学習支援事業(ジョイントクラブ)参加者数(人)	2,170	1,826	1,900
「差別を許さない都市宣言制定記念市民集会」参加者数(人)	321	337	360
人権啓発講座(ハートフルコンサート)参加者数(人)	393	483	364
人権啓発標語応募件数(件)	715	943	2,360
人権作文・ポスター応募件数(件)	5,515	5,365	6,278
戦争と平和展来場者数(人)	141	159	991
平和啓発事業参リーフレット配布枚数・参加者数(人)	11,967	13,025	10,960
男女共同参画推進市民フォーラム参加者数(人)	151	134	82
伊丹マダン参加者数(人)	4,200	4,100	4,200
国際・平和交流協会支援事業参加者数(人)	290	252	91

平成 24(2012)年版 伊丹市人権教育・啓発白書

平成 24(2012)年 10 月 発行

発行 〒664-8503 兵庫県伊丹市千僧 1 丁目 1 番地
伊丹市市民自治部共生推進室 同和・人権推進課

T E L : 072-784-8077 F A X : 072-780-3519

伊丹市教育委員会事務局 人権教育室

T E L : 072-784-8113 F A X : 072-780-3519